

令和3年度 第6回 政策調整会議 会議録①

-
- ◆開催日時：令和3年10月26日（火） 9：45～10：20
 - ◆開催場所：第2委員会室
 - ◆出席委員：堤副市長、戎井副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長、松下まちづくり推進部長
-

◆審議事項

- ・広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編について
・・・・・・・・市街地整備課⇒承認
-

◆審議概要

『広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編について』

〈説明者〉高橋市街地整備課長、笠谷担当主幹

◎付議依頼書に基づき説明

◎説明後、質疑応答

- 〈堤副市長〉本事業は、総合計画や交通まちづくりアクションプランを踏まえた都市構造の形成にかかわる重要な事業であるという位置づけを明確にしておくこと。事業の継続・撤退の判断のためのルールについて十分に協議しておくこと。
- 〈戎井副市長〉和泉中央ルートにおいて、ゆめみヶ丘の住宅地は通らないのか。
- 〈市街地整備課長〉ゆめみヶ丘の住宅地内には福田線が通っていることも踏まえ検討した。住宅地を通ると、時間的・経費的に不利となる。また、乗客を見込める既存バス停の大久保橋や山直中町を通ることが出来ないため、提示案を基本として進める。
- 〈戎井副市長〉住民の意見を聞きながら進めるように。10年後には黒字化を見込むとのことだが、具体的に何が要因で黒字化するのか。
- 〈市街地整備課長〉山直北への誘致企業の操業、土地利用の変化等を踏まえると、10年後には土地利用の定着が見込め、黒字化が見込めると試算している。この時点で赤字が解消されていないということになれば、場合によっては撤退の判断をすることになる。地元利用促進のPRも行いながら進めていきたい。
- 〈戎井副市長〉何人程度の利用で黒字化が見込めるか。
- 〈市街地整備課長〉和泉中央ルートでは、5年後には600人程度の利用を見込んでいるが、その時点ではまだ黒字化には至らない。黒字化するには、およそ1,000人程度の利用が必要と見込んでいる。
- 〈教育長〉和泉中央ルートでは、まずは5年の実証運行が行われるとのことだが、その後の事業継続又は撤退の判断基準については、しっかり議論し、明確にしておくこと。

- 〈市街地整備課長〉 随時、状況確認を行う。5年後の判断基準についても議論しておく。
- 〈教 育 長〉 岸和田市は、現行の地域公共交通網形成計画を国土交通大臣に送付しているが、それによって国からの補助金は得られるのか。
- 〈市街地整備課長〉 地域公共交通網計画に係る事業について国からの補助金を得るには、赤字が大きいなどの条件があり、本市は該当しない。
- 〈財 務 部 長〉 カーボンニュートラルや高齢者の免許返納増加等の社会的な流れがある中で、交通網の充実は必要なことである。しかし一方で、懸念事項として補助金が増加しないかという点がある。また、今回再編対象となる山直北地区については、丘陵地区や泉州山手線の整備など特殊な事情を持つ地区であることを明確に示してもらいたい。
- 〈市街地整備課長〉 都市構造を形成していくうえでの重要な拠点と位置づけている。
- 〈まちづくり推進部長〉 公共交通の空白地帯の要望にすべて応えるのは難しいことは理解している。そういった地域には、財政負担のない範囲で、柔軟に対応できるようにしたい。
- 〈財 務 部 長〉 バス事業者は積極的に関与している状況か。
- 〈市街地整備課長〉 利用者が右肩下がりで厳しい状況であるため、新規路線には慎重になっている部分がある。しかし、市の都市構造形成において重要であることを伝えていく中で、理解をいただいている。
- 〈財 務 部 長〉 見込みどおりに黒字にならず、撤退となることもある。行政が撤退した場合のバス事業者の対応を確認したい。継続していくことになった場合は、バス事業者、鉄道会社とともに、地域住民や就労者に PR をしていくことが必要であるので、どのように行っていくか検討をするように。また、補助金の金額の適正性について、今後の見通しも含め、説明責任が果たせるよう整理しておくように。福田線について、現状の路線で既に1,300万円の補助金を出しているが、今回の事業は、それとは別に必要額を上乗せするという理解でよいか。
- 〈市街地整備課長〉 福田線の利用者が増加し、全体が黒字化してくれば、現在赤字の2分の1を補助している1,300万円の部分も徐々に圧縮されていくことも考えられる。ただし、あくまで今回増やす部分については、既存の補助金とは別に考え、その部分の赤字が解消されれば減額していく。
- 〈財 務 部 長〉 今回の政策調整・決定会議で承認されれば、来年度予算要求することになるが、その場合は、財政課の担当者と十分に協議したうえで進めてほしい。
- 〈総 務 部 長〉 ローズバスと同様、利用者の確保が重要である。5年の実証運行の間に、愛彩ランドやその他事業者ニーズ調査を行い、それに応えられるよう調整してもらいたい。
- 〈市街地整備課長〉 現時点でも丘陵地区整備課で行っているところ。開設後も実態調査、フォローアップを行い、実証運行の判断材料にしていく。
- 〈総合政策部長〉 まちの利便性や魅力について積極的に PR を行いながら進めていくように。
- 〈総合政策部長〉 本案件について、原案のとおり政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

3年9月10日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 まちづくり推進 部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	R4 までに策定する次期交通まちづくりアクションプランの方向性に沿った公共交通ネットワークの再編として、路線バス福田線のルート変更と道の駅・愛彩ランド～和泉中央駅間についての道路運送法第 21 条による実証運行ルートの新設
説明者	まちづくり推進部市街地整備課長 高橋 正悟 " 市街地整備課 笠谷 陽介
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和3年度 第6回会議
付議事項	広域連携軸の整備や拠点の形成に合わせた公共交通ネットワークの再編

★取組の目的

対象	丘陵地区(ゆめみヶ丘岸和田～道の駅愛彩ランド)、山直北地区の地域拠点
どのような状態を目指す	R4までに策定する次期交通まちづくりアクションプランの方向性に沿った公共交通ネットワークの再編

★総合計画上の位置付け

106020106	基本目標	I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(2)人や物が盛んに市内を行き交っている
	目指す成果	①市内の移動がスムーズにできている
	行政の役割	カ 公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進める

★現状と課題

<p>丘陵地区で企業誘致が進み、今年度ゆめみヶ丘岸和田のまちびらきが行われ、山直北地区の新たな拠点づくりが進む中、次期交通まちづくりアクションプランの計画に合わせ、道の駅・愛彩ランドを中心拠点とした「にぎわい造り」のため、OSPF関連事業スマートシティーの取組、その他公民連携の取組とともに既存の路線バス網の再編を行う。</p>
--

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
路線バス福田線のゆめみヶ丘岸和田を経由するルート変更				5,300	3,289	2,106	986	0
道の駅・愛彩ランド～山直北地区～和泉中央への路線バス実証運行ルートの設置				22,500	45,800	37,600	29,400	21,200
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源				27,800	49,089	39,706	30,386
	その他							
事業費			計	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
			168,181	27,800	49,089	39,706	30,386	21,200

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
有	無						

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R1年度	R2年度	R3年度	目標値				
					R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。